



／ 令和7年度入局 ／

新規採用職員の声



一般職大卒区分採用
民事行政部不動産登記部門



一般職高卒区分採用
民事行政部不動産登記部門



一般職大卒区分採用
民事行政部法人登記部門



一般職高卒区分採用
廿日市支局



一般職大卒区分採用
東広島支局



一般職高卒区分採用
呉支局登記部門



一般職大卒区分採用
福山支局登記部門

Q1 広島法務局を志望した理由を お聞かせください。



大学で学んだ法律の知識をいかすことができる点に加えて、幅広い業務を法律にのっとり、取り組むことができる点に魅力を感じ、志望しました。

国民の一生を支えるという、大きな規模の仕事に携われることに魅力を感じ、志望しました。

宅地建物取引士の資格試験の勉強をしていく中で、不動産登記についての内容を学び、国民の権利を保護し、取引の安全と円滑を図る重要な登記を主な業務として行う法務局の業務に興味を持ったからです。


多くの国民と関わることができる法務局の業務に魅力を感じ、社会に貢献したいという思いから志望しました。

就職活動中、様々な官公署のお話を聞く中で、法務局の国民の生活の基盤を支える不動産・商業登記業務や心を守る人権擁護業務が、自身の働く上でのやりたいことに重なり、魅力を感じたからです。また、説明会や職場見学での、職員の皆さんの雰囲気がとても穏やかで、その点も広島法務局を選んだ理由の一つです。


耕作放棄地のように使用していない土地を一定条件を満たせば国に帰属できる国庫帰属制度に魅力を感じたためです。

大学で学んだ法律知識をいかして、専門的かつ多様な業務に関われることに魅力を感じたためです。


働く前のイメージと採用後に感じたギャップをお聞かせください。




法律知識をかなり用いる難しい業務だと想像していましたが、周囲のサポートもあり、少しずつ覚えて身につけることができました。




堅い職場で分からないことがあっても聞きにくいのではないかと感じていましたが、実際には聞きやすく、先輩方から声をかけていただくことも多々あり、働きやすいと感じています。




業務説明会で法人登記部門の業務内容を聞いた際、専門用語が多く難しそうだと感じ、少し身構えていましたが、部門内の指導体制が整っており、法令や参考図書も活用しながら、安心して業務に取り組むことができます。




堅い職場という印象がありましたが、実際はコミュニケーションが活発で、相談しやすく働きやすい職場でした。



働く前は、私が法律を専門的に学んだ経験がないこともあって、業務を遂行できるか不安に思っていたのですが、入局してすぐの研修や、実際に働く中で学びの機会がとても多く、意外と何とかなるというところにギャップを感じました。




専門性が高く、厳格な雰囲気があると思っていましたが、実際には、分からないことがあっても上司や先輩職員が丁寧に教えてくれる、アットホームな職場環境でした。




働き始める前は、職務の専門性の高さから少し堅い印象を持っており、個人で黙々と高度な業務を進めるイメージがありましたが、実際に働いてみると、確かに業務は専門的で難しい部分もありますが、先輩や上司が丁寧に指導して下さるため、職場全体で協力しながら課題に取り組める環境が整っていると感じました。


入局して感じた広島法務局の 魅力をお聞かせください。




先輩職員のサポートが手厚いだけでなく、個々の業務における勉強会も実施しており、より成長する機会が多い点が魅力です。




研修制度が充実しており、初等科研修では全国の同期と実務に必要な基礎的な知識を学ぶことができます。
研修を通して横の繋がりもでき、困ったことがあれば相談できる、心強い仲間ができることも法務局の魅力だと考えています。




法人登記部門に配属された当初は、何をしてもよいか分からず戸惑うこともありましたが、先輩職員の方がOJTを通じて親身に対応してくださり、業務内容や申請書の調査方法について丁寧に教えていただいたことで、周囲の方々のサポートが非常に手厚い職場であると感じました。




幅広い業務に携わることができ、多くの国民と関わるができるところが魅力です。



なんといっても職場の方がみなさんととても優しく、入局してすぐの右も左も分からない状態の自分に、色々なことを教えてくださったのが印象に残っています。また、休暇が柔軟に取得できる場所も魅力の一つだと思います。




支局の登記部門でも、電子認証や印鑑カードの発行等に関する業務といった、不動産関係以外の幅広い業務に携われることが魅力です。




国民の権利を守る重要な業務に携われるため、大きなやりがいを実感できます。また、周囲の方々のサポートが手厚く、分からないことも丁寧に教えていただけるため、新しい業務にも積極的に挑戦しやすく、どんどん自分のスキルを高めていくことができます。


職場はどのような雰囲気ですか。
また、どのようにして職場に慣れましたか？




年齢が近い職員とはもちろん、年齢が離れた職員の方々とも楽しく交流することができ、疑問に感じた点は遠慮なく尋ねることができる職場です。日常的な会話を通して、職場に慣れることができました。




休憩時には、若手職員とベテラン職員が一緒になって話すことも多く、職員同士の仲の良さを感じています。休憩室では、普段仕事内容が違う等の関係で関わる機会のない方たちとお話できるため様々な人とコミュニケーションを取り、職場に慣れていきました。




法人登記業務を行う中で疑問点が生じた際には、先輩職員や上司に気軽に質問できる環境が整っており、場合によっては部門全体で問題を検討するなど、協力体制が確立されているため働きやすさを実感しています。また、このような職場の雰囲気の中で、積極的に業務について質問し、その都度メモを取ることで着実に職場に慣れていくよう努めてきました。




コミュニケーションが活発で、何事にも積極的に挑戦することができる職場です。その中で先輩に質問することで、少しずつ業務にも慣れていきました。



基本的に、各々の机と向き合い業務を進める静かな雰囲気職場ですが、だからといって話しかけづらいということはなく、分からないことは勇気を出して先輩職員に質問することで、仕事にも慣れつつ、職場にもなじめるようになっていったと思います。




経験豊富な方が多く、分からないことがあっても、上司や先輩職員が教えてくださいるので、少しずつ職場に慣れることができました。




業務に集中するときと、職員同士和やかに会話をするときのメリハリがしっかりしていて、とても働きやすい雰囲気職場だと感じています。仕事をする上で分からないことがあれば自ら進んで質問し、職員の方々とは様々なコミュニケーションをとって、仕事にも職場にも慣れていきました。


最初はどのようなお仕事に携わったかお聞かせください。




最初は、先輩職員が調査した内容をシステムに入力することから始めました。所有者の住所・氏名などの登記情報が、誤りなく正しく表記されているかを慎重に確認しながら入力を行っていました。また、先輩職員と申請地に赴き、実際に建物が申請どおりに建築・取り壊されているかどうかを確認するといった調査も行いました。




最初は、先輩職員が調査した事件内容をシステムに入力することから始めました。現在では、受付から処理までの一連の流れを学び、採用当初に分からなかったことについても知識が増えたことにより、電話や窓口対応で先輩に聞くことなく答えることができるようになり、自身の成長を実感しています。




当初は、登記端末の操作に慣れるため、先輩職員が調査した法人登記申請書について、登記事項のシステム入力のみを担当したり、簡易な登記申請の調査を行うなど、基礎的な業務に取り組んでいましたが、現在では、申請事件の調査を本格的に担当するようになり、少しずつではありますが、法律知識を深めるとともに、対応できる申請事件の範囲も広がってきています。




不動産登記の受付を担当し接客等を行い、マニュアル等を見ながらシステム操作を覚えていきました。



最初に携わったのは登記受付の業務でした。窓口で申請書を受領したり、スムーズに審査へと移るため書類を整えたりする業務で、最初は何が何だか分からずとても疲れましたが、続けていくうちに慣れてきて、同時に不動産登記の基礎的なことを学ぶことができ、入局したての頃からやりがいをもって仕事に臨むことができました。



登記受付を担当し、不動産登記の受付から登記完了までの流れを学びました。その経験をいかし、今では「権利」登記の申請調査・記入を担当したり、受付では、それまで先輩職員に対応してもらったことも多かったですが、ひとりで対応できることが増えました。



不動産登記業務の中でも「表示」に関する調査業務に携わりました。ひとつの事件を実際に受け持ち、調査のポイントやシステム上の処理などを教わりながら、自分で処理していくことを続け、次第に仕事に慣れていきました。